
世界を旅するライダーダークネス

ギアル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界を旅するライダーダークネス

【Nコード】

N7914I

【作者名】

ギアル

【あらすじ】

デイケイド、デイエンドといったライダーは世界を旅するが、彼は訳有りで旅をし、ライダーとして悪と戦う物語です。

(前書き)

始めましてギアルです、初めてライダー系の小説を書こうと思います。

駄文ですが宜しくお願いします。

青年「ここはどこだ？」

黒いロングコートを着た青年、ジンザキ神崎ラウはそう呟いた。

ラウ「今度は何処の世界だよ、風都名物のラーメンを食べようと思っただのに……」

どうやら彼は前はWの世界に居た様でラーメンを食べに行こうと思っただらこの世界に飛ばされたらしい。

???「ここはディケイドの世界だ」

何時の間にかラウの隣に居たフェルト帽を被った中年男性がいた。

ラウ「……おっさんだれなんだ？」

鳴滝「私の名は鳴滝、預言者だ」

ラウ「預言者？その預言者様が俺に何か用か？」

鳴滝「世界の破壊者ディケイド、ディエンド、クウガを始末してほしい、奴等が世界を滅ぼす前に」

ラウ「分かった、所でこの世界はディケイドの世界って事は……」

鳴滝「いや、この世界にディケイドは居ないが大シヨツカーの残党が少しだが居る。それを何とかしてほしい」

ラウ「分かった、大シヨツカーの残党を倒した後はディケイドを探して倒しとくよ。」

そう言うラウは自分のバイク、ダークリオンに乗り大シヨツカーを探しに行った。

白い蝙蝠？「アイツをそのままにほっといていいの？」

鳴滝に話し掛けたのは、鳴滝に従いディケイドの監視をし人をキバに変身させるあのキバットの妹キバーラだった。

鳴滝「今は自由にさせるさもしディケイドに味方する様なら始末させるまでさ」

そう言う鳴滝とキバーラはオーロラと共に消えていった。

その頃ラウは街でディケイドや大シヨツカーについて情報を探して

いた。

ラウ「ディケイドの情報をいくら集めても悪い印象はないなあ、本当に世界の破壊者なのか？」

ラウはディケイドは世界の破壊者疑惑が薄れていた時・・・少年「た、助けてー！ー」

ラウは声の聞こえた方を見るとなんと少年が大シヨツカーの戦闘員に追われているの見た。

ラウ「あれが大シヨツカーの戦闘員?!少年が危ない!」

戦闘員A「イー!(そいつを逃がすな!)」

戦闘員B「イー!(追い詰めたぞ!)」

三人の戦闘員が少年を路地裏に追い詰めてじりじりと少年に近づくと戦闘員C「イー!(ぐわ!)」

駆けつけたラウが戦闘員Cを蹴り飛ばした。

戦闘員A「イー!(ばれたぞ!引け!)」

戦闘員Aがそう合図すると戦闘員AとBがCを引きずって逃げた。

ラウ「おい、少年大丈夫か？」

黒夜「ありがとう、僕の名前は査利黒夜なんだ」

ラウ「何でお前は大シヨツカーの戦闘員に追われていたんだ？」

黒夜「実は僕、大シヨツカーの残党のアジトを見ちゃって・・・」

それを聞いたラウは黒夜の首根っこを掴んでガクガクと揺さぶった。

ラウ「何!本当か!それを教えてくれ!」

黒夜「わ、分かったよ!実は僕の友達が家族とキャンプしに行ったから戻ってこなくてキャンプ場あたりを調べてたら近くの洞穴から奴等が出てきたのみちゃったから・・・」

ラウ「分かった、お前の友達を俺が助けてやる」

黒夜「無理だよ!大シヨツカーは怖い連中がたくさんいるんだよ!しかしラウは笑うところ言った。

ラウ「安心しろ、俺は世界を旅する仮面ライダーだからだ。」

そしてラウはダークリオンに乗り大シヨツカー残党のアジトに向か

った。

アジト入り口

ラウ「大シヨツカーの戦闘員でてこい！」

ラウがそう言うのと戦闘員が20人程出てきた。

戦闘員隊長「イー！（コイツが我々の邪魔をしたのか、野郎どもかかれ！！）」

戦闘員達「イー！（了解！）」

戦闘員達が全員ラウに飛び掛ってきたがラウはジャンプしてそれかわした。

ラウ「さあてと、変身といくか」

ラウは黒いベルト、ダークベルトを腰につけてイクサナツクルと似ているダークナツクルを取り出し手のひらにつけた

「READY」

ラウ「変身！」

「HENSHIN」

ラウはダークナツクルをベルトに装着すると黒の特殊スーツ、白いマフラー、目が赤い白い髑髏の仮面を被ったライダー、仮面ライダーダークネスに変身した。

ダークネス「せっかくだからプレゼントしよう」

ラウはディエンドドライバーの改良型とも言つ銃、ハイドラを取り出し、1枚のカードを入れた。

「ATTACKRIDE GATE」

ダークネスが1枚のカードを入れるとオーロラが出現した。

ダークネス「門は開かれた、今回はコレだ」

「KAMENRIDE DEN-O!!」

ダークネス「モモちゃん出番だよ」

ダークネスがハイドラの引き金を引き、オーロラから現れたのは・

電王「俺、参上!!！」

ダークネスが召還したのは皆さんご存知電王ソードフォームことモ

モタロスだった。

アタックライドゲートを使用した後仮面ライダーを召還するとオリジナルの人物を召還できるのだ。

「FINAL FORMRIDE DE DE DEN-O!」

ダークネス「歯食いしばれ」

ダークネスは「ファイナルフォームライド デンオウ」で電王を「デンオウモタロス」に変形させた。

モモタロス「痛いから！アレはめちゃくちゃ痛いんだよ!」

ダークネス「いいからモモちゃん、頑張れ」

モモタロス「分かったよ、いいか？俺は最初から最後までクライマックスだぜ!!」

モモタロスが戦闘員相手に大暴れしているうちにアジトに侵入した。
アジト最深部

???「ここまで来るとはなかなかやるな仮面ライダーよ」

アジト最深部にいたのはアリゲーターイマジンだった。

ダークネス「どうして人を誘拐したりするんだ？」

アリゲーターイマジン

AE「俺の新しい力を得るためと新しい怪人を作る為さ、所で」

AE「降参しろ、俺の仲間になれ、そうすれば大シヨッカーが復活した暁には幹部の座をやるっ」

ダークネス「降参、降参つていまさら高校生に戻れるか!!」

AE「そうか残念だ、じゃ消えてもらっか」

AEがダークネスに突進してきたがダークネスはパンチとキックのラッシュでかなりのダメージを与えた。

ダークネス「さっさと終わりにするぜ」

ダークネスは金色のフェッスル、バレットフェッスルをダークナックルにセットした。

「BULLET KICK」

そのままダークネスは強力な飛び蹴りバレットキックを繰り出した。
AE「もう出番はおしまい~~~~」

変な叫び声と共に爆発したアリゲーターイマジンだった

その後ダークネスは捕まっていた人々を助けた出して次の世界に行こうとした時

黒夜「お兄ちゃん！友達を助け出してありがとう！」

ラウ「友達を大切にしろよ」

ラウは黒夜の頭をなでてダークリオンに乗り次の世界に向かった。

ラウ「この世界にも馬鹿兄貴にジンヤがいなかったな、次の世界に行くか。」

ラウはそのままオーロラに潜って次の世界に向かった。

人は望めばいつかそれは叶う

FIN

(後書き)

どうもギアルです、初めての小説にかなり時間がかかりましたが・

・

ダークネスはイクサのプロトタイプでモチーフはスカルマン、基本カラーは黒というもんです。

ラウはかつてに世界を旅をした兄アース、弟ジンヤ、姉2人、妹一人を探す為世界を旅すると理由です。

最後まで見てくれてありがとうございます！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7914i/>

世界を旅するライダーダークネス

2010年10月21日20時22分発行